

※当ファンドは、2025年8月7日以降、新規購入のお申込み受けを一時的に停止させていただいております。

ニッポン中小型株ファンド

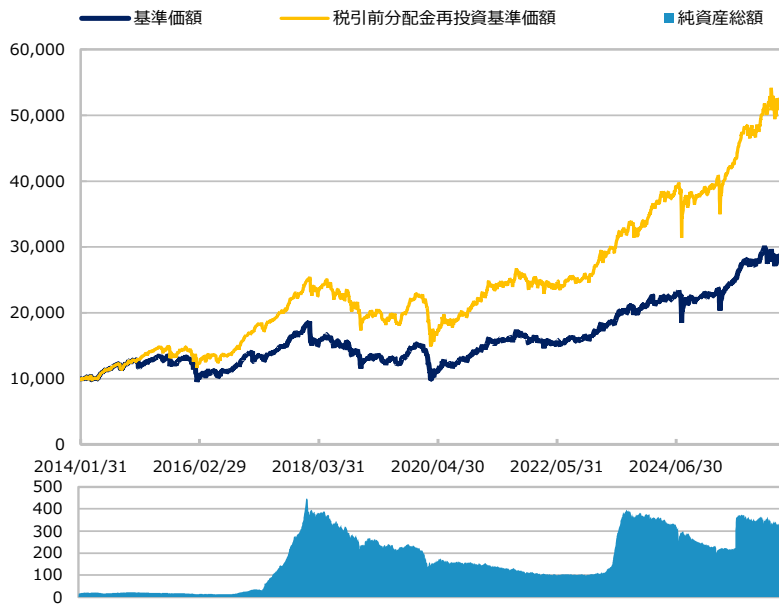
追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年05月29日

ファンド設定日：2014年02月03日

日経新聞掲載名：ニッポン中小

基準価額・純資産総額の推移（円・億円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

| | 当月末 | 前月比 |
|------------|--------|--------|
| 基準価額（円） | 27,998 | +144 |
| 純資産総額（百万円） | 31,621 | -1,208 |

- 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（%）

| | 基準日 | ファンド |
|------|------------|-------|
| 1 カ月 | 2026/04/30 | 0.5 |
| 3 カ月 | 2026/02/27 | -5.6 |
| 6 カ月 | 2025/11/28 | 5.2 |
| 1 年 | 2025/05/30 | 21.9 |
| 3 年 | 2023/05/31 | 75.3 |
| 設定来 | 2014/02/03 | 411.2 |

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

| 期 | 決算日 | 分配金 |
|-------|------------|-------|
| 第8期 | 2022/02/02 | 300 |
| 第9期 | 2023/02/02 | 350 |
| 第10期 | 2024/02/02 | 1,350 |
| 第11期 | 2025/02/03 | 300 |
| 第12期 | 2026/02/02 | 1,650 |
| 設定来累計 | | 9,900 |

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（%）

| | 当月末 | 前月比 |
|--------|-------|------|
| 株式 | 93.9 | +1.1 |
| プライム | 42.7 | -0.1 |
| スタンダード | 31.2 | +0.5 |
| グロース | 19.2 | +0.7 |
| その他 | 0.9 | +0.1 |
| 先物等 | 0.0 | 0.0 |
| 現金等 | 6.1 | -1.1 |
| 合計 | 100.0 | 0.0 |

運用概況

当月末の基準価額は、27,998円（前月比+144円）となりました。
また、税引前分配金を再投資した場合の月間騰落率は、+0.5%となりました。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。
※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



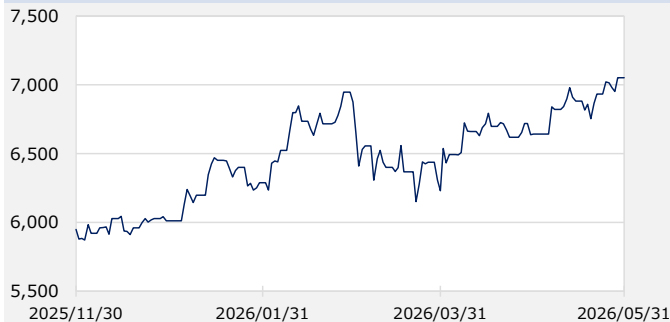
ニッポン中小型株ファンド

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年05月29日

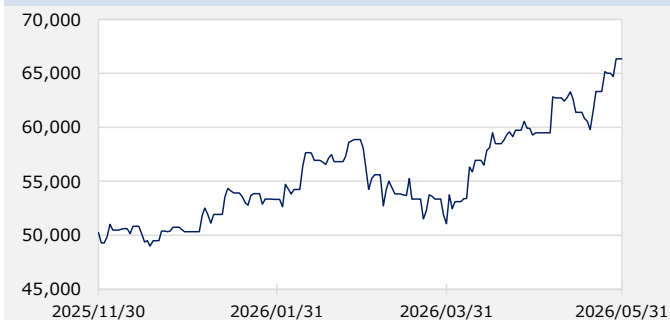
ご参考 市場動向

TOPIX（東証株価指数、配当込み）



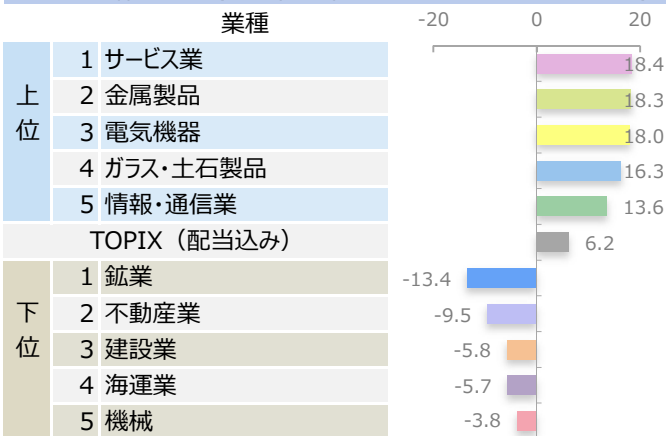
当月末：7,052.5 前月末：6,638.6 騰落率：6.2%

日経平均株価（日経225）（円）



当月末：66,329.5 前月末：59,284.9 騰落率：11.9%

TOPIX（配当込み）の東証業種分類別月間騰落率（%）



※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

市場動向

中東情勢への懸念が和らぐ中、2025年度通期決算発表において良好な業績見通しや株主還元強化を示した企業、米ハイテク株高を受けたAI関連企業などへの買いが、相場を押し上げました。その後、インフレ懸念に伴う日米の長期金利上昇を受けて下落する局面があったものの、戦闘終結に向けた交渉進展への期待やそれに伴う原油価格の下落などを好感して反発し、高値を更新する展開となりました。

業種別では、サービス業、金属製品、電気機器などが市場をアウトパフォームした一方、鉱業、不動産業、建設業などがアンダーパフォームしました。

市場見通し

世界景気は、エネルギー価格上昇の影響を受けて一時的に下振れるものの、AI投資拡大や拡張的な財政支出が支えとなり、拡大基調が続くと予想します。中東情勢は依然として不透明な要素が残るものの、停戦交渉の継続によって更なる事態悪化は回避されるとみており、国内景気への悪影響は政策出動により抑制されると思います。総じて底堅い内外景気を背景に、企業業績の改善基調は続くと予想します。

国内株式市場は、引き続き中東情勢などを警戒しつつも底堅く推移し、下値を切り上げていく展開を予想します。ただし、日米長期金利の一段の上昇局面やAI投資期待の後退時には、値動きが荒くなる場面もあると想定します。

■ 設定・運用



※当ファンドは、2025年8月7日以降、新規購入のお申込み受けを一時的に停止させていただいております。

ニッポン中小型株ファンド

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年05月29日

基準価額の変動要因（円）

| 全体 | | 業種別要因 | | 銘柄別要因 | | | |
|-----------|------|-------|----------|-------|-----|-----------------|------|
| | 寄与額 | | 寄与額 | | 寄与額 | | |
| 株式 | +180 | 上位 | 1 化学 | +143 | 上位 | 1 ハードオフコーポレーション | +112 |
| 先物・オプション等 | 0 | | 2 電気機器 | +98 | | 2 ニッタ | +61 |
| 分配金 | 0 | | 3 ゴム製品 | +77 | | 3 トーモク | +60 |
| その他 | -36 | | 4 パルプ・紙 | +60 | | 4 日本カーバイド工業 | +60 |
| 合計 | +144 | | 5 陸運業 | +55 | | 5 ゼロ | +58 |
| | | 下位 | 1 その他金融業 | -119 | 下位 | 1 ジャックス | -92 |
| | | | 2 サービス業 | -70 | | 2 TENTIAL | -55 |
| | | | 3 不動産業 | -59 | | 3 VTホールディングス | -48 |
| | | | 4 繊維製品 | -50 | | 4 NSグループ | -43 |
| | | | 5 機械 | -21 | | 5 勤次郎 | -32 |

※ 基準価額の月間変動額を主要要因に分解したもので概算値です。

組入上位10業種（%）

| | 当月末 | 前月比 | |
|----------|------|------|------|
| 1 情報・通信業 | 19.3 | +2.0 | 19.3 |
| 2 サービス業 | 17.8 | +0.3 | 17.8 |
| 3 小売業 | 9.5 | +1.0 | 9.5 |
| 4 卸売業 | 7.4 | -0.5 | 7.4 |
| 5 化学 | 5.9 | +0.2 | 5.9 |
| 6 不動産業 | 5.1 | -0.0 | 5.1 |
| 7 陸運業 | 4.5 | +0.4 | 4.5 |
| 8 その他金融業 | 4.5 | -0.4 | 4.5 |
| 9 電気機器 | 3.7 | -0.3 | 3.7 |
| 10 機械 | 2.3 | -0.2 | 2.3 |

※ 業種は東証業種分類です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



ニッポン中小型株ファンド

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年05月29日

組入上位10銘柄（％）

（組入銘柄数 271）

| 銘柄 | 業種 | 比率 | コメント |
|----|----------------------|-----|--|
| 1 | ノースサンド サービス業 | 3.2 | コンサルティング業界の新興企業。顧客との伴走に振り切ったビジネスモデルで急成長。 |
| 2 | 稲畑産業 卸売業 | 2.8 | 化学品商社の大手。東南アジアで着色プラスチックの供給体制を充実させている。 |
| 3 | ハードオフコーポレーション 小売業 | 2.5 | 家電製品を軸とした総合中古品流通業者。会員アプリの利用頻度の高さは出色。 |
| 4 | ミロク情報サービス 情報・通信業 | 2.5 | 会計事務所向けソフトウェア大手の一角。高水準の利益を保ちつつ継続課金型にシフトしている。 |
| 5 | V Tホールディングス 小売業 | 2.1 | 愛知のホンダ系ディーラーを起点として、全国の日産系・ホンダ系ディーラーをM&Aで糾合。メーカーに頼り切らない営業政策が特徴。 |
| 6 | ジャックス その他金融業 | 2.0 | MUFGの信販大手。オートローン主力。クレジットカード、信用保証を強化。東南アジア進出。 |
| 7 | ゼロ 陸運業 | 1.9 | 日産系の自動車陸送会社が香港資本の下で事業改革。中古車輸送を中心とする高収益企業に変貌。 |
| 8 | トーモク パルプ・紙 | 1.8 | 段ボール業界大手の一角で、東日本・加工食品に強み。環境配慮型の北欧風住宅も手掛ける。 |
| 9 | 鴻池運輸 陸運業 | 1.7 | 運輸業にとどまらず、製鉄所・飲料工場・空港など幅広い分野で業務を受託。 |
| 10 | TENTIAL 繊維製品 | 1.7 | 巧みなマーケティングを武器に、高級寝間着を中心としたブランド「BAKUNE」が急成長。 |

※ 組入銘柄の紹介を目的としており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。また、記載内容は作成時点のものであり、将来予告無く変更されることがあります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



ニッポン中小型株ファンド

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年05月29日

ファンドマネージャーコメント

5月の株式市場は、前月に続いて活発なデータセンター投資が注目を集め、半導体関連や電子部品関連の銘柄が大きく買い上げられました。これらの銘柄は大型株が多いため、市場全体でも大型株の上昇率が中小型株を上回りました。当ファンドは半導体関連や電子部品関連の銘柄をほとんど保有していません。加えて、組入上位銘柄のジャックス（8584）が大幅減益予想の発表によって下落したこと等が響き、わずかな上昇にとどまりました。

最近の株式市場はさらに荒っぽさを増しています。イラン問題もすんなりと解決するとは思われず、特に最近急騰した銘柄に関しては、反落リスクが高まっていると判断しています。当ファンドでは、割安株投資を徹底することで、反落リスクを抑えつつ長期的な上昇を目指します。

<イラン問題の現状整理>

イラン問題は長期化の様相を呈しています。原油や石油製品の確保という面では最低限の目途が立っており、軍事行動がさらにエスカレートする最悪の事態は回避されているものの、解決に向かう落としどころはまだみえていません。今回は、日本の上場企業業績に対する影響という点に絞って、私なりの現状認識を確認したいと思います。

3月決算企業の決算発表に関しては、ほとんどの企業が業績予想を発表しました。私は、新型コロナウイルスが流行した2020年のように予想発表を見送る企業が多く出てくると予想していましたが、ちょっと拍子抜けした感じです。また、影響の織り込み方に関しても、数量面まで織り込んでいる企業は少なく、とりあえず現状のみでいる原材料・エネルギー価格の上昇だけを反映させた企業が多数派です。確たる根拠がないという理由で、一切影響を織り込んでいない企業も少なくありません。そういった企業に関しては、今後いずれかの時点で影響を織り込む必要が出てくると考えられます。

一方、足元の経済活動に関しては、さまざまな原材料で品薄感が生じているものの、生産に本格的な障害が発生しているケースは上場企業レベルではみられません。最初に問題が顕在化したのは溶剤不足でしたが、輸入の拡大や政府の流通に対する介入などにより、製造業に関してはいったん沈静化しています。一方、産業副資材や生活雑貨などでは、仮需による荷動き増加も観測されます。また、産業向け分野の多くでは、いまのところ価格交渉も供給側のペースで進んでいる模様です。

従って、4-6月期決算に関しては、意外と好業績が期待できるのではないかと考えています。ただし、これは必ずしも喜ばしいことではありません。7-9月期以降は、高値で確保した原油や石油製品がどんどん費用化されていきます。これらがすべて転嫁され、需要もまったく落ちないということはまず考えられません。真の影響を見定めるのは、秋以降の仕事になると考えています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

ニッポン中小型株ファンド

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年05月29日

ファンドの特色

- わが国の中小型株に実質的に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目指します。
 - 当ファンドは「ニッポン中小型株マザーファンド」を主要投資対象とするファミリーファンド方式で運用を行います。
 - わが国の全上場株式（上場予定を含む）のうち、相対的に時価総額の小さい株式を主要投資対象とします。
- 綿密な企業調査に基づくボトムアップ・アプローチにより、利益成長および成長の持続性等を勘案したファンダメンタルズ価値に対して、株価水準が割安と判断する銘柄に投資します。
- 年1回決算を行い、分配方針に基づき分配を行います。
 - 決算日は、毎年2月2日（休業日の場合は翌営業日）とします。
 - 委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

※ 資金動向、市況動向、残存元本等によっては、ならびにやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

【分配金に関する留意事項】

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンド



ニッポン中小型株ファンド

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年05月29日

投資リスク

その他の留意点

- の収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
 - ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。

ニッポン中小型株ファンド

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年05月29日

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

信託期間

無期限（2014年2月3日設定）

決算日

毎年2月2日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配を行います。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 配当控除の適用が可能です。益金不算入制度の適用はありません。

ニッポン中小型株ファンド

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年05月29日

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に**3.30% (税抜き3.00%) を上限**として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額
換金申込受付日の基準価額に**0.30%**を乗じた額です。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に**年1.815% (税抜き1.65%)**の率を乗じた額です。
- その他の費用・手数料
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。
- ※ 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合
少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。
ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした公募株式投資信託等を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

委託会社・その他の関係法人等

| | |
|------|--|
| 委託会社 | ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ：https://www.smd-am.co.jp コールセンター：0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く） |
| 受託会社 | ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三井住友信託銀行株式会社 |
| 販売会社 | ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。 |

※当ファンドは、2025年8月7日以降、新規購入のお申込み受けを一時的に停止させていただいております。

ニッポン中小型株ファンド

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年05月29日

販売会社

| 販売会社名 | 登録番号 | 日本証券業協会 | 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 | 資産運用業協会 | 一般社団法人金融先物取引業協会 | 日本S T O 協会 | 一般社団法人 | 備考 |
|-----------------------------|---------------------------|---------|--------------------|---------|-----------------|------------|--------|-------|
| アイザワ証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3283号 | ○ | ○ | ○ | | | | |
| S M B C 日興証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 株式会社 S B I 証券 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 岡三証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第53号 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ※1 |
| 寿証券株式会社 | 金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第7号 | ○ | | | | | | |
| G M O クリック証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第77号 | ○ | | | ○ | | | |
| 四国アライアンス証券株式会社 | 金融商品取引業者 四国財務局長（金商）第21号 | ○ | | | | | | |
| 静岡東海証券株式会社 | 金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第8号 | ○ | | | | | | |
| 大和証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 立花証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第110号 | ○ | | | ○ | | | |
| 東海東京証券株式会社 | 金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第140号 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 内藤証券株式会社 | 金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第24号 | ○ | ○ | | | | | |
| 西村証券株式会社 | 金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第26号 | ○ | | | | | | |
| ひろぎん証券株式会社 | 金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第20号 | ○ | | | | | | |
| ほくほく T T 証券株式会社 | 金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第24号 | ○ | | | | | | |
| 松井証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号 | ○ | | | ○ | | | |
| マネックス証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 三菱 U F J e s マート証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| めぶき証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第1771号 | ○ | | | | | | ※2 |
| 楽天証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| リテラ・クリア証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第199号 | ○ | | | | | | |
| 株式会社イオン銀行（仲介） | 登録金融機関 関東財務局長（登金）第633号 | ○ | | | | | | ※3 |
| 株式会社 S B I 新生銀行（S B I 証券仲介） | 登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号 | ○ | | | ○ | | | ※1 ※4 |
| 株式会社 S B I 新生銀行（マネックス証券仲介） | 登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号 | ○ | | | ○ | | | ※1 ※3 |
| 株式会社熊本銀行 | 登録金融機関 九州財務局長（登金）第6号 | ○ | | | | | | |
| 株式会社十八親和銀行 | 登録金融機関 福岡財務支局長（登金）第3号 | ○ | | | | | | |
| 株式会社福岡銀行 | 登録金融機関 福岡財務支局長（登金）第7号 | ○ | | | ○ | | | |

備考欄について

※1：ネット専用 ※2：新規の募集はお取り扱いしていません。 ※3：委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社 ※4：委託金融商品取引業者 株式会社 S B I 証券

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



ニッポン中小型株ファンド

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年05月29日

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に關し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 設定・運用

